

取扱説明書



PRO MIXER DJX750

Professional 5-Channel DJ Mixer with
Advanced Digital Effects and BPM Counter

目次

ありがとう	2
安全にお使いいただくために	3
法的放棄	3
限定保証	3
1. 操作部	4
1.1 ステレオチャンネル 1 から 4	4
1.2 マイクフォンチャンネル	5
1.3 MONITOR セクション	5
1.4 MASTER セクション	5
1.5 CROSSFADER セクション	5
1.6 XPQ 3D サラウンドエフェクト	5
1.7 BPM オートカウンター	6
1.8 内部エフェクトプロセッサ	6
2. 接続	7
2.1 の後部の接続	7
3. スタートアップ	8
4. 発送	8
5. オンライン登録	8
6. テクニカルデータ	9

ありがとう

DJX750 は、最先端を行くあなたにぴったりの画期的な DJ ミキサーです。ビートカウンターやインサートバス、内部エフェクトプロセッサなどの多彩な機能により、まったく新しく、そして創造的なセッションが可能になります。プロフェッショナルに使用できるミキサー DJX750 は、操作も非常に簡単で、あなたの創造力をサポートします。

時間はあっという間に過ぎます。急がないと、すぐに取り残されてしまいます。そうならないために、私たちは最新の機能と技術を備えた DJ ミキサーを開発しました。このミキサーは、ダンスクラブ用の装置や DJ 装置における使用に適しており、最大限の楽しさを実現します。

取扱説明書を好んで読む人はいません。誰でもすぐに装置を使ってみたいと思うことでしょう。それでも、まず、本書を読んでください。そうすると、DJX750 のすべての機能を理解できるだけでなく、それらをうまく使いこなせるようになります。

JP

安全にお使いいただくために

**注意**

感電の恐れがありますので、カバーやその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。高品質なプロ用スピーカーケーブル (¼" TS 標準ケーブルおよびツイスト ロッキング プラグケーブル) を使用してください。

**注意**

火事および感電の危険を防ぐため、本装置を水分や湿気のあるところには設置しないで下さい。装置には決して水分がかからないように注意し、花瓶など水分を含んだものは、装置の上には置かないようにしてください。

**注意**

このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が生じています。手を触れると感電の恐れがあります。

**注意**

取り扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用前に良くお読みください。

**注意**

1. 取扱説明書を通してご覧ください。
2. 取扱説明書を大切に保管してください。
3. 警告に従ってください。
4. 指示に従ってください。
5. 本機を水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は常に乾燥した布巾を使ってください。
7. 本機は、取扱説明書の指示に従い、適切な換気を妨げない場所に設置してください。取扱説明書に従って設置してください。
8. 本機は、電気ヒーターや温風機器、ストーブ、調理台やアンプといった熱源から離して設置してください。
9. 二極式プラグおよびアースタイプ (三芯) プラグの安全ピンは取り外さないでください。二極式プラグにはピンが二本ついており、そのうち一本はもう一方よりも幅が広がっています。アースタイプの三芯プラグには二本のピンに加えてアース用のピンが一本ついています。これらの幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのもの

です。備え付けのプラグが、お使いのコンセントの形状と異なる場合は、電器技師に相談してコンセントの交換をして下さい。

10. 電源コードを踏みつけたり、挟んだりしないようご注意ください。電源コードやプラグ、コンセント及び製品との接続には十分にご注意ください。

11. すべての装置の接地 (アース) が確保されていることを確認して下さい。



12. 電源タップや電源プラグは電源遮断機として利用されている場合には、これが直ぐに操作できるように手に設置して下さい。

13. 付属品は本機製造元が指定したもののみをお使いください。

14. カートスタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどは、本機製造元が指定したものの、もしくは本機の付属品となるもののみをお使いください。カートを使用時の運搬の際は、器具の落下による怪我に十分ご注意ください。

15. 雷雨の場合、もしくは長期間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

16. 故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。電源コードもしくはプラグの損傷、液体の装置内への浸入、装置の上に物が落下した場合、雨や湿気に装置が晒されてしまった場合、正常に作動しない場合、もしくは装置を地面に落下させてしまった場合など、いかなる形であれ装置に損傷が加わった場合は、装置の修理・点検を受けてください。



17. 本製品に電源コードが付属されている場合、付属の電源コードは本製品以外ではご使用いただけません。電源コードは必ず本製品に付属された電源コードのみご使用ください。

法的放棄

技術的な仕様および製品の的外観は予告なく変更される場合があります。またその内容の正確性について、いかなる保証をするものではありません。BEHRINGER, KLARK TEKNIK, MIDAS, BUGERA, および TURBOSOUND は、MUSIC GROUP (MUSIC-GROUP.COM) のブランドです。すべての商標はそれぞれの所有者の財産です。MUSIC GROUP は、ここに含まれたすべて、もしくは一部の記述、画像および声明を基にお客様が起こした行動によって生じたいかなる損害・不利益等に関して一切の責任を負いません。色およびス

ペックが製品と微妙に異なる場合があります。MUSIC GROUP 製品の販売は、当社の正規代理店のみが行っています。ディストリビューターとディーラーは MUSIC GROUP の代理人ではなく、あらゆる表現、暗示された約束、説明等によって MUSIC GROUP を拘束する権利はまったくありません。この説明書は、著作権保護されています。本取扱説明書に記載された情報内容は、MUSIC GROUP IP LTD. からの書面による事前の許諾がない限り、いかなる利用者もこれを複製、使用、変更、送信、頒布、入れ替え、工作することは禁じられています。

製権所有

© 2013 MUSIC Group IP Ltd.

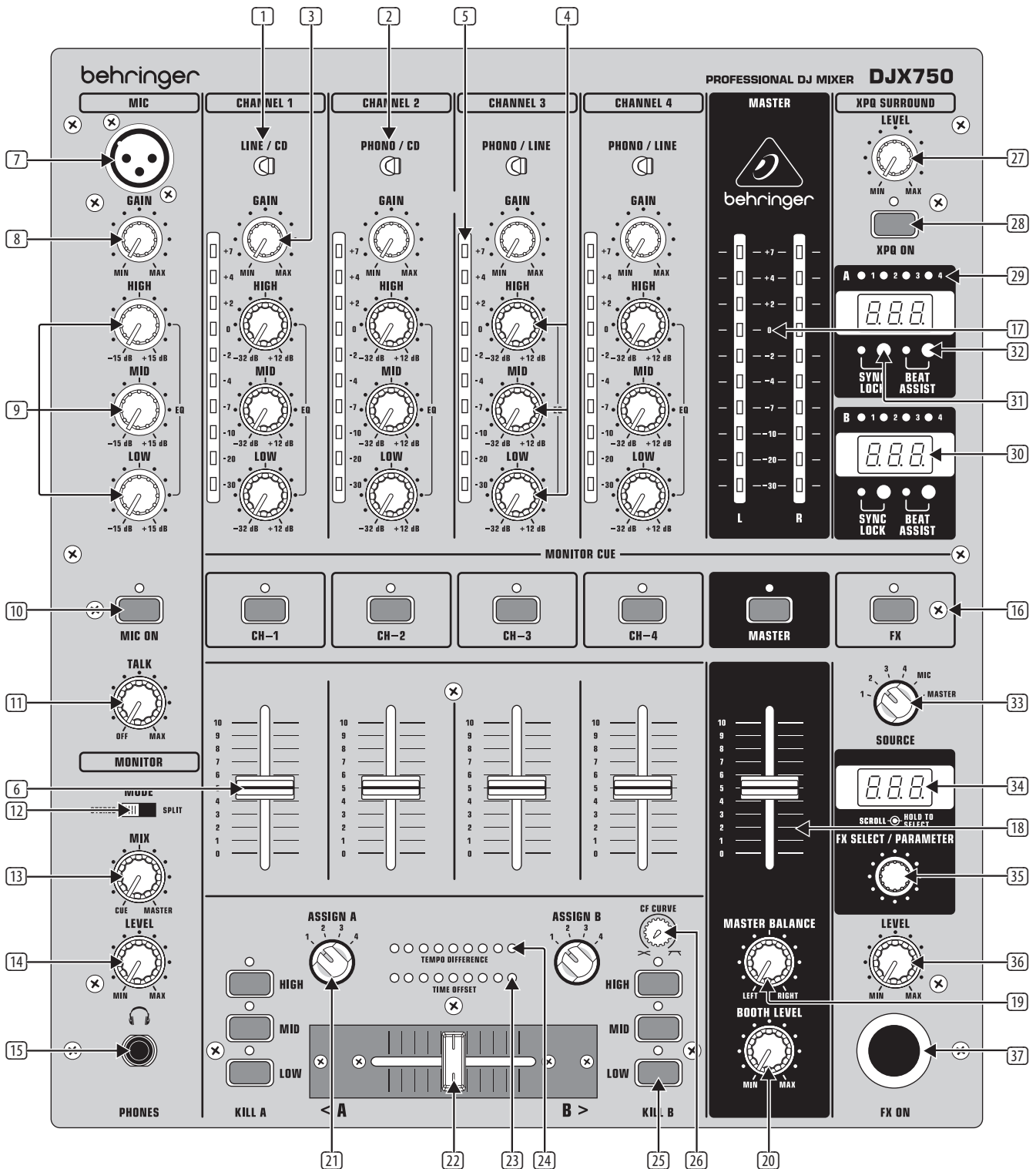
Trident Chambers, Wickhams Cay, P.O. Box 146, Road Town, Tortola, British Virgin Islands

限定保証

適用される保証条件と MUSIC Group の限定保証に関する概要については、オンライン上 www.music-group.com/warranty にて詳細をご確認ください。

JP

1. 操作部



1.1 ステレオチャンネル 1 から 4

- ① LINE/CD スイッチ。チャンネル 1 の入力信号を選択します。他のチャンネルとは異なり、このチャンネルには 9 つのライン入力があります。
- ② PHONO/CD スイッチそして PHONO/LINE スイッチ (チャンネル 3 と 4) を用いて チャンネル 2 から 4 の入力信号を指定します。「Phono」は、レコードプレイヤーを接続する際に選択してください。一方、「Line」や「CD」は、その他の信号ソース (例えば CD

や MD プレイヤー) を用いる場合に選択します。その際、フォノ入力の入力感度をラインレベルに切り替えることができ、フレキシブルにフォノ接続をおこなえます (④1 参照)。

- ◆ ラインレベルの機器を高感度のフォノ入力端子に接続しないでください。フォノピックアップの出力レベルがミリボルト単位であるのに対し、CD プレイヤーやテープデッキのレベルはボルト単位です。すなわち、ライン信号のレベルは、フォノ入力の場合よりも最大で 100 倍も高いのです。

- ③ GAIN コントローラーは、入力信号の調節に用います。その際 ⑤ に、現在のレベルが表示されます。
- ④ すべての入力チャンネルには、それぞれ Kill 機能付きの 3 バンドイコライザー (HIGH、MID そして LOW) があります。それにより、信号はブーストする (+12 dB) のに対し、大幅にカットする (-32 dB) ことができます。この機能は、音楽トラックから特定の周波数領域をフェードアウトする際などに便利です。
- ◇ 全体レベルは EQ の設定によっても変わりますので、GAIN コントローラーを使ってレベル調節をする前には、イコライザーを設定しておいてください。
- ⑤ チャンネルに対応する 10 個の LED で、入力信号のレベルを読み取れます。
- ⑥ チャンネルフェーダーを用いて チャンネルの音量を設定します。

1.2 マイクロフォンチャンネル

- ⑦ ダイナミック・マイクロフォン用のバランス型 XLR コネクターです。
- ⑧ MIC セクションの GAIN コントローラーを用いて、マイクロフォン信号の音量を設定します。
- ⑨ マイクロフォンセクションにも、3 バンドイコライザー (HIGH、MID と LOW、Kill 機能なし) があり、声の響きを変更したり、サウンドに合わせて最適に調節することができます。
- ⑩ MIC ON スイッチ。マイクロフォン-チャンネルをアクティブにします。その際アクティブなチャンネルの LED が点灯します。
- ⑪ PRO MIXER には、トークオーバー機能があります。この機能は非常に簡単で、要はトラックの出力中にマイクロフォンを使うと、そのトラックの音量が抑えられるということです。音楽信号がカットされる度合いは、TALK コントローラーで設定します (最大 -24 dB)。この機能は、アナウンスの際にあなたの声を前面に持ってくるのに役立ちます。

1.3 MONITOR セクション

MONITOR 信号は、あなたのヘッドフォン信号です。MASTER 信号に影響を与えることなく次の曲を聞くことができます。

- ⑫ MODE スイッチが「Split」位置にあれば ステレオイメージの左側には次にかける曲のチャンネル信号、右側に MASTER 信号が出力されます。この場合 MIX コントローラー (下記参照) は機能しません。「Stereo」モードでは、MIX コントローラーを使って MASTER 信号と次の曲の信号間をクロスフェードできます。
- ⑬ MIX コントローラーを使って「Stereo」モードの際にヘッドフォンで聞く信号を設定します。このコントローラーを左 (CUE) に合わせるとヘッドフォン信号のみが、右に合わせると MASTER 出力信号のみが聞けます。その間に調節すると、2 つの信号間の音量の比率を設定できます。
- ⑭ LEVEL コントローラー。ヘッドフォン-信号の音量を設定します。

- ⑮ ヘッドフォン用のアンバランス型 PHONES ジャックです。使用するヘッドフォンの最小インピーダンスは 32 オームでなければなりません。
- ⑯ MONITOR CUE キー (CH-1 から CH-4、MASTER、FX) を用いて、ヘッドフォンに取り込む次曲の信号を選択します。複数の信号ソースを選択して同時に聞くことも可能です。チャンネルがヘッドフォンに取り込まれると、そのキーの LED が点灯します。

1.4 MASTER セクション

- ⑰ MASTER LEVEL メーターで、MASTER 信号の信号レベルを読み取れます。
- ⑱ MASTER フェーダー。MASTER 出力での音量を設定します (④④ 参照)。
- ⑲ MASTER 出力のステレオイメージを得るために、MASTER BALANCE コントローラーを使用します。
- ⑳ BOOTH LEVEL コントローラーでは、BOOTH 出力での音量を設定します (④⑤ 参照)。

1.5 CROSSFADER セクション

- ㉑ ASSIGN A と B 回転キーで、CROSSFADER A と B に取り込む入力信号を設定します。さらに、この 2 つの信号間を CROSSFADER を使ってクロスフェードできます (下記参照)。
- ㉒ VCA CONTROLLED CROSSFADER は、選択したチャンネル間のクロスフェードに使用します (㉑ 参照)。KANAL フェーダーと同様に、CROSSFADER もプロフェッショナルな 45 mm フェーダーです。
- ㉓ TIME OFFSET LED 表示で 左右のクロスフェーダーにおけるトラックの同期を読み取れます (第 2.7 章参照)。
- ㉔ TEMPO DIFFERENCE LED には 左右のクロスフェーダーにおけるトラック間のテンポの違いが表示されます (第 2.7 章参照)。
- ㉕ 左右のクロスフェーダーには、それぞれ、3 バンドキルスイッチがあり (KILL A と KILL B)、3 つの分離した周波数帯域 (LOW、MID と HIGH) を -32 dB カットできます。従来の DJ ミキサーでは、キルスイッチを使用すると入力チャンネルの EQ が機能しませんでした。DJX750 ではそんなことはありません。一定の周波数帯域を大幅にカットする際などに、これらのスイッチを適用できます。
- ㉖ CF CURVE コントローラーで、クロスフェーダーの調節の特性を、線形もしくは対数に変更できます。線形の場合は、クロスフェーダーを移動するとそれに合わせてクロスフェードが行なわれ、対数の場合には、音量の調節は、移動量の外側の領域において変位します。

1.6 XPQ 3D サラウンドエフェクト

XPQ 3D サラウンド機能は、本装置に組み込まれているエフェクトで あなたの音楽にもう一度磨きをかけ、1 回ごとの演奏をまたとない経験にします。ステレオ編集により、サウンドはよりいきいきとし、そして透明感も増します。SURROUND コントローラー ㉗ で、エフェクトの強度を設定し XPQ ON スイッチ ㉘ で、アクティブにします (LED が点灯します)。

1.7 BPM オートカウンター

PRO MIXER DJX750 の BPM オートカウンターは 2 つのトラック間を滑らかに移行するための非常に役に立つ機能で、これにより、あなたのセッションが大成功を収めること間違いなしです。この機能は、送り出すトラックの異なるテンポを BPM (Beats Per Minute) 単位で伝えます。両方の BPM カウンターセクションは同じで クロスフェーダーに対応する 2 つのステレオチャンネルの BPM 値をそれぞれ表示します。DISPLAY の上部にある LED 1-4 ⑳には、4 つの入力チャンネルのうちのどれがその時 BPM カウンターに送り出されたかが表示されます。

ASSIGN A キーそして B キーによって割り当てられたトラックのテンポは、それぞれ DISPLAY ㉑に表示されます。1 つのトラックに複数のテンポの切り替えがある際には 絶えず異なる BPM 値が表示され 混乱してしまいます。このような場合には ビートカウンターセクションにある SYNC LOCK キー ㉒を使って、1 曲のテンポの値の範囲を制限することができます。この操作は、カウンターがすでに実際的な数値を伝えている場合におこないます。同じ操作は BEAT ASSIST キー ㉓を用いて手動でおこなうことも可能です。これらのキーを 3 回以上 1 つの曲の拍子の中で実行すると、DISPLAY に抽出されたテンポが表示されます。BEAT ASSIST キーと SYNC LOCK キーには、それぞれ LED が備わっています。

SYNC LOCK キーもしくは BEAT ASSIST キーを用いて 両チャンネルで送り出されるトラックのテンポを制限したら、チャンネルのテンポの違いを、9 個の LED から成る TEMPO DIFFERENCE 表示 ㉔で確かめられます。ここでは、右方向へ点灯するか (信号 A のテンポの方が遅い) もしくは左方向へ点灯するか (信号 B のテンポの方が遅い) で、テンポの違いの程度が表示されます。中央の LED が点灯すると、テンポは同じということになります。その下にある TIME OFFSET LED 表示 ㉕では、チャンネルの同期を読み取れます。表示の中央の LED が点灯すると、トラックが同時に出力されていることとなります。この表示が左方向もしくは右方向に移動する場合には、チャンネルは同時に出力されていません。TEMPO DIFFERENCE 表示そして TIME OFFSET 表示は 両方のチャンネルのテンポが一定に保たれている、もしくは上記の方法によって固定されている場合にのみ アクティブになります。

◆ **送り出す音楽信号のない (もしくは小さすぎる音楽信号) の場合、ビートカウンターのディスプレイには、水平な一本の線が表示されます。存在しているけれど確認のできない音楽信号の場合には ディスプレイにはまず 160 BPM と表示され、そして再び水平な線が表示され、ビートカウンターにより改めて分析の試みがおこなわれます。つまり、「160」BPM というのは、有効な数値ではなく、分析不可能な音楽信号を示すエラーメッセージです。**

SYNC LOCK モードもしくは BEAT ASSIST モードを終了するには 両チャンネルでもう一度 SYNC LOCK キーを押してください。

1.8 内部エフェクトプロセッサ

マルチエフェクトプロセッサのプリセット

Grp	No.	Effect	Type	Adjustable Parameter	
1	0	Filter Sweep	LP	Frequency	
	1	Filter Sweep	BP	Frequency	
	2	Filter Sweep	HP	Frequency	
	3	"Auto Filter (Envelope)"	LP	Sensitivity	
	4	"Auto Filter (Envelope)"	BP	Sensitivity	
	5	"Auto Filter (Envelope)"	HP	Sensitivity	
	6	LFO Filter	LP	LFO Rate	
	7	LFO Filter	BP	LFO Rate	
2	0	Bitcrusher	—	Depth	
	3	0	Flanger	Gate/Pan	LFO Rate
		1	Flanger	"Standard (Full Res)"	LFO Rate
2		Flanger	"Standard (Half Res)"	LFO Rate	
4	0	Delay	Ultra	LFO Rate	
	1	Delay	1/1	Delay Time (related to BPM)	
	2	Delay	3/4	Delay Time (related to BPM)	
5	0	Delay	1/2	Delay Time (related to BPM)	
	0	Echo	1/1	Delay Time (related to BPM)	
	1	Echo	3/4	Delay Time (related to BPM)	
6	0	Echo	1/2	Delay Time (related to BPM)	
	0	Reverb	Big Plate	Reverb Time (Decay)	
	1	Reverb	Small Chamber	Reverb Time (Decay)	
7	2	Reverb	Bright Room	Reverb Time (Decay)	
	3	Reverb	Voice Widener	Tone	
	4	Reverb/Delay	"Big Plate + Delay"	Delay Time (related to BPM)	
	0	Phase Shifter	4	LFO Rate	
8	1	Phase Shifter	Fall	LFO Rate	
	2	Phase Shifter	Rise	LFO Rate	
	0	Panning	Panning	LFO Rate	
9	1	Panning	Tremolo	LFO Rate	
	0	Sim/Dyn	Ultrabass	Frequency	
	1	Sim/Dyn	Ultrafex	Frequency	
2	Sim/Dyn	Voice Changer	Distortion		

DJX750 にはデジタルエフェクトプロセッサが内蔵されているため、マスター信号、入力チャンネル信号またはマイク信号にエフェクトをかけることができます。このモジュールには、リバーブ、コーラス、エコーといった標準的なエフェクトの他にフィルター、モジュレーションエフェクトなども含まれています。

- SOURCE コントローラー ㉖でエフェクトをかけたい信号を選択します。
- PROGRAM コントローラー ㉗を廻してエフェクトを選択します。PROGRAM ディスプレイ ㉘にプログラムナンバーが表示されます。
- PROGRAM コントローラーを約 2 秒間押し続けると、選択したプリセットがロードされます。
- エフェクトがロードされたら、PROGRAM コントローラー ㉗を廻して、エフェクトのパラメーターを変更することができます。ディスプレイにパラメーターの値が表示されます。
- ◆ **選択したエフェクトのどのパラメーターが変更可能かは、変更可能なパラメーター内にある表をご覧ください。**

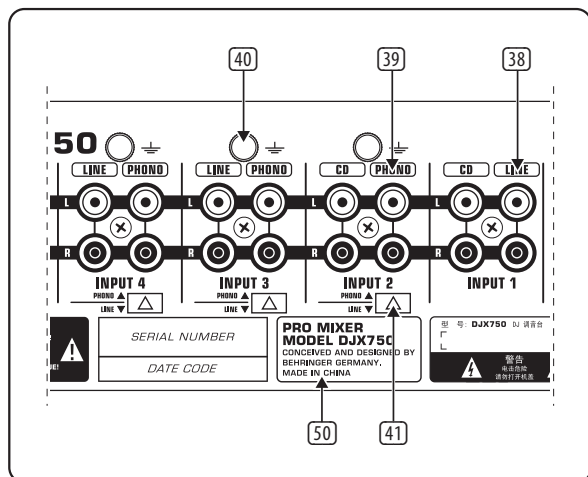
◇ デレイおよびエコー効果においては、パラメータ値は BPM (Beat per Minute) で表示されます。ここでは 80 から 160 BPM 間で値の変更が可能となります。ディスプレイは 2 桁表示までとなっているので、100 を超える値の表示の際は、下二桁のみが表示されます (例えば、120 BPM の際は 20 とだけ表示されます)。

- LEVEL コントローラー 36 でエフェクト信号の音量レベルを設定します。
- FX ON スイッチ 37 を押しとエフェクト信号が有効になります。

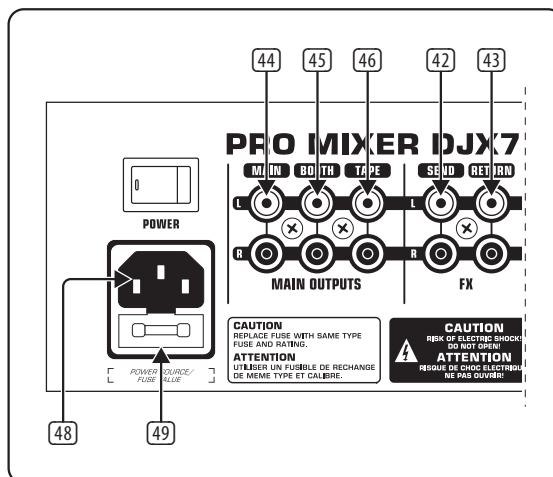
PROGRAM コントローラーをもう一度押しと、再びエフェクトの選択が可能となります。

2. 接続

2.1 の後部の接続



- 38 これらは、LINE 入力端子及び CD 入力端子で、テープデッキ、CD プレイヤー、MD プレイヤーを接続します。チャンネル 1 には、他のチャンネルと異なり、2 つのライン入力があります。
- 39 チャンネル 2 から 4 までの PHONO 入力端子は、レコードプレイヤーの接続に用います。
- 40 GND 接続は、レコードプレイヤーのアースに用います。
- 41 PHONO/LINE スイッチを用いて チャンネル 2 から 4 までの PHONO 入力の入力感度を LINE レベルに切り替えることができます。そうすることで、テープデッキや CD プレイヤーをフォノ入力端子に接続することができます。



- 42 DJX750 には、内部のエフェクトプロセッサの他にも、外部のエフェクト装置 / サンプラーのためにインテグレートされたエフェクトバスがあります。SEND バスを通して MONITOR セクションの信号が取り込まれ、外部の装置へ導かれます。したがって、SEND ジャックから送り出される信号はヘッドフォン信号と同じになり、MONITOR CUE キー 16 を用いて選択されます。
- 43 RETURN リターンバスを通して、外部で編集された信号は MASTER セクションの信号 (出力信号) に加えられます。ただし、エフェクト信号の音量は、エフェクト装置の出力コントローラーでのみ設定することができます。
- 44 MASTER コネクターは、アンプの接続に使われ MASTER フェーダー 18 で設定します。

◇ 起動時の過大入力によるスピーカーの損傷を避けるため パワーアンプは最後に電源を入れるようにしてください。また、パワーアンプを起動する前には、突然耳が痛くなるようなショックを防ぐため、必ず DJX750 から信号が送り出されていないことを確かめてください。それには、すべてのフェーダーを下げておくか、もしくは、すべての回転コントローラーをゼロにあわせておけばいいでしょう。

- 45 BOOTH 出力端子は、例えばモニターボックスを使用したり、もしくは 2 番目のゾーンに音を響かせる目的でアンプを接続するために別途装備されています。これは、MASTER セクションの BOOTH LEVEL コントローラー 20 を用いて調節します。
- 46 テープデッキや DAT レコーダーなどの機器を接続しておくと、TAPE 出力を通して音楽を録音できます。MASTER 出力とは異なり、最初の音量が固定されていますので、録音装置で入力レベルを設定しておかなければなりません。
- 47 POWER スイッチを使って、DJX750 を起動します。機器を電源に差し込むとき、このスイッチは「切」の状態になければなりません。

◇ POWER スイッチで電源を切ったとき、機器への電源供給は完全に遮断されません。そのため、機器を長期間使用しない場合には、ケーブルをコンセントから完全に抜いてください。

- ④8 ここには電源ケーブルを接続します。ここで、高度な電源のメリットがわかります。アンプ回路のインパルス特性は、とりわけ、使用可能な電力量によって決まります。ミキサーには、ラインレベル信号を処理するために数多くのオペレーションアンプ（オペアンプ）が装備されていますが、電源の供給電力が限られていることから多くのミキサーは過負担による「ストレス」を示すこととなります。しかし、あなたの DJX750 はそんなことはありません。あなたのサウンドはいつでもクリアで透明です。
- ④9 ヒューズホルダー / 電圧選択装置 を電源に接続する前に、電圧の表示が供給電圧と同じであることを確認してください。ヒューズ交換の際には必ず同じタイプのものを使用してください。タイプによっては 230 V と 120 V の使用電圧切替のため、ヒューズホルダーが 2 つの異なる場所に差込めるようになっています。注意: ヨーロッパ以外の地域で、装置を 120 V の電圧で使用する場合にはヒューズ値を高めに設定するようにしてください。
- ◇ 装置への電源供給を遮断するには、ケーブルをコンセントから抜いてください。装置を起動するには、電源プラグがすぐに手が届く距離にあることを確認してください。また、装置をラックに取り付ける際には、プラグや後部にある全極の電源スイッチによって、すぐに電源供給を遮断できる状態にしてください。
- ⑤0 DJX750 のシリアルナンバー。

3. スタートアップ

- ◇ 十分な換気を確保し、過熱を防ぐために機器は暖房などのそばに設置しないでください。
- ◇ この装置をコンセントに接続する前に、装置本体が供給電源に合わせて設定されているかどうかを必ず確認して下さい。メインコネクターのヒューズホルダーには、3 つの三角形マークが記されています。このうち 2 つの三角形は向かい合った位置に記されています。この装置は、このマークの横に記された電圧にセットされています。ヒューズホルダーを 180 度回転させると、この設定を変更することが出来ます。



注意

この項目は特定の供給電圧用に設定されている輸出用モデルには当てはまりません。

装置本体を別の電圧に設定する場合は、別の安全装置を使用する必要があります。正しい設定値は「テクニカル・データ」の項目に記載されています。

- ◇ ヒューズが焦げた場合は、正しい値のヒューズと交換します。ヒューズの値については「テクニカルデータ」の章をご覧ください。ヒューズを交換する際は、感電および装置への損傷を防ぐため、装置の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。

電源への接続には付属の標準型 IEC コネクター付きケーブルを使用して下さい。このケーブルは必要な安全基準を満たしています。

- ◇ すべての機器が正しく接地されていることを確認します。安全のために、機器や電源回路ケーブルからアース線を取り外したり使用不能にすることは絶対にしないでください。必ず正常な接地線をご使用のうえ、装置を電源網に接続してください。

- ◇ 電波の強い放送局や高周波音源の範囲内では、音質が減退する可能性があります。その場合は、送信機と機器の距離を離し、すべての接続にシールドケーブルを使用してください。

4. 発送

お使いの BEHRINGER 製品が故障した際には、できる限り迅速に修理を行いたいと思っています。保証サービスをお受けになる場合は、製品の購入先となる BEHRINGER 代理店までまずご連絡ください。お近くに BEHRINGER 代理店がない場合は、当社会社へ直接ご連絡ください。

該当する連絡先などの情報は、製品の梱包に付属しています（グローバル・コンタクト・インフォメーション / ヨーロピアン・コンタクト・インフォメーション）お住まいの国名がリストにない場合は、最寄のディストリビューターまでご連絡ください。ディストリビューターの一覧表が当社ウェブサイト (behringer.com) のサポートエリアにございます。

お客様に迅速かつ効率的な修理サービスが行えるよう、当社の製品登録にご協力をお願いいたします。

製品は、安全な輸送のために工場出荷時に十分な注意を払って梱包しておりますが、万が一包装ダンボールが破損している場合は、機器の外面に破損がないことをご確認ください。

- ◇ 万が一機器に破損がある場合は、保証請求権が無効となることを防ぐために、製品を当社へ直接返送せず、必ず販売代理店および運送会社までご連絡ください。
- ◇ 機器を保管したり輸送する場合は、破損を防ぐために、必ずオリジナルの梱包箱を使います。
- ◇ 機器や包装箱は子供の手の届かない場所に保管してください。

5. オンライン登録

BEHRINGER 製品ご購入後は、behringer.com 上で製品登録を行い、保証条件をお読みください。

ご協力ありがとうございます!

6. テクニカルデータ

オーディオ入力

MIC	ゲイン 40 dB、XLR、 電子バランス
PHONO 入力	ゲイン 40 dB、 アンバランス型入力
LINE 入力	ゲイン 0 dB、 アンバランス型入力
CD 入力	ゲイン 0 dB、 アンバランス型入力
RETURN	ゲイン 0 dB、 アンバランス型入力

オーディオ出力

MASTER	最大 +21 dBu
BOOTH	最大 +21 dBu
TAPE	標準 0 dBu
SEND	標準 0 dBu
PHONES 出力	最大 180 mW @ 75 Ω

イコライザー

Stereo Low	+12 dB / -32 dB @ 50 Hz
Stereo Mid	+12 dB / -32 dB @ 1.2 kHz
Stereo High	+12 dB / -32 dB @ 10 kHz
Mic Low	+15 dB / -15 dB @ 80 Hz
Mic Mid	+15 dB / -15 dB @ 2.5 kHz
Mic High	+15 dB / -15 dB @ 12 kHz
Kill Low	-54 dB @ 50 Hz
Kill Mid	-44 dB @ 1 kHz
Kill High	-26 dB @ 10 kHz

デジタルエフェクトプロセッサ

DSP	Freescape
コンバーター	24-Bit Sigma-Delta、64/128 倍 オーバーサンプリング
サンプリング	46.875 kHz レート

全般

S/N 比	> 80 dB (Line)
クロストーク	> 70 dB (Line)
歪み率 (THD)	< 0.03%
周波数帯域	10 Hz - 55 kHz, +0 / -3 dB

電源供給

消費電力	32 W
電源アダプター	標準 IEC コネクター

供給電圧 / ヒューズ

100 - 120 V~, 50/60 Hz	T 1 A H
220 - 230 V~, 50/60 Hz	T 500 mA H

寸法 / 重量

寸法 (高 x 幅 x 奥行)	約 104.3 x 320 x 370.8 mm
重量	約 3.9 kg

BEHRINGER 社は、最高の品質水準を保つ努力を常に行っています。必要と思われる改良等は、事前の予告なしに行われますので、技術データおよび製品の写真が実物と多少相違する場合がありますが、あらかじめご了承ください。技術仕様および外観は予告なく変更する場合があります。



We Hear You